



安曇野日和

連載コラム 院長室だより 病院長 桑村 智

少し時間が経ってしまいましたが、この7月1日より病院長となりました。

WHO職員、医政局長といった要職を歴任し、グローバルかつ先進的な視点をもって、このミサトピア小倉病院に様々な新風を吹き込んで下さった篠崎英夫前院長から引き継ぐにあたり、大きなプレッシャーを感じているのは事実であります。これまで副院長という立場でその手腕を目の当たりにしたわけですが、おいそれとまねできるものではありません。そこで私は早々に頭を切り替え、やや開き直りもありますが、前院長の方針を踏襲しつつ自分のできることに力を尽くそうと決めました。

安曇野市医師会を始めとして地域の医療機関との連携をより確かなものとするために、以前にも増して会合や研修会に出席するようになりました。その際には多くの先生方に温かく迎えていただき、うれしさと同時に身の引き締まる思いがしました。若輩ゆえに手を抜くことは許されません、しかし全力で取り組みれば自ずと伝わるものもあろうと信じております。

さて、病院内のことに触れますが、現在は電子カルテ化の真っ最中です。7月はシステムの環境づくりのためのディスカッションを繰り返し、月の半分以上は会議をしておりました。8月からは各部署の具体的な調整に入り、9月からは概ね定まりつつあるシステムを基にして操作研修の日々が続きます。10月1日の稼動を目指して着々と進行しております。

電子カルテ化には当然ながらメリット・デメリットがあります。導入すると決めた以上はデメリットを最小限にし、メリットを最大限にする努力が必要だと思っています。私が院長となって最初の大仕事だと思って、職員一丸となって一所懸命頑張ります。今後とも何卒よろしくお願いいたします。

表紙写真

写真タイトル：「 室山池の睡蓮 」 撮影者： 樋口 孝 （広報委員長）

精神科病棟だより

2-3病棟紹介

看護主任 上水 宏美

2-3病棟は精神療養病棟の開放病棟の1つで、30代から90代の50名の患者さんが長期療養されている病棟です。症状が安定していても、なかなか自立した生活を送れるような退院先がなく、病院が患者さんの生活の場となっているのが現状です。ほとんどの患者さんは「家に帰りたい」とおっしゃいますが、受け入れる社会的資源が絶対的に不足していることから、当院での長期入院を余儀なくされています。

当院での治療の3本柱は精神療法・薬物療法・作業療法です。精神療法とは、医師や臨床心理士などが、「言葉」を使って患者さんの心に直接働きかけ、苦痛を取り除いていく治療法のことです。薬物療法は文字通りお薬による治療のこと。近年では以前に比べ、副作用の少ない薬や安価な薬が増えています。作業療法は、様々な活動を通してのリハビリテーションのことです。具体的には手芸などの創作活動、集団でのゲーム、園芸活動、カラオケなど、多岐にわたります。

このほか、季節感のあるレクリエーションにも力を入れています。今年度は、ひな祭り・お花見・スイカ割りなどを行いました。これらの活動により、普段では見られない患者さんの笑顔や意外な一面が発見できました。



ひな祭りに、二胡の演奏会を開催しました。初めて二胡の演奏を聴いた方も多く、良い音色を楽しめました。

多くの患者さんは、ホールのテレビで歌謡ショーや高校野球を見ることを楽しんでいます。ただ、たびたび、こんなことがあります。みんなが楽しみにしていた歌謡ショーをみていると、猛烈な勢いで1人の患者さんが来て、ブチッと消してしまい、多くの患者さんからものすごいブーイング。患者さんが50人いれば、いろいろな患者さんがいらっしゃいます。1つのことにすごくこだわってしまい、1日中そのことばかり言う方、人の言動が気になって文句ばかり言う方、どんな活動も器用にこなしてしまう方、とても愉快的、本当にそうだったらいいのに、と思うような楽しい妄想をたくさん話してくれる方、大きな声を出す方…など。…こう書くと、職員の我々にも少し思い当たる節はありますが、患者さんはそれらの程度が病状により激しいために、生活する上でお手伝いが必要というところでしょうか。「トイレトペーパーちょうだい」と繰り返す方。「先生今日何時に来る?」と何度も聞きに来る方、これらみな苦笑ですが、患者さんにしたら真剣そのもの。頭ごなしに「ダメ」と言っても納得はしません。その方の病状・性質を考え、工夫して対応しています。



病院の近くにある、室山アグリパークへお花見散歩へ行きました。

最後に、入院期間が長期化することで患者さんの身体機能が衰えたり、身体合併症を持つ方が増えてきています。そのケアの比重がかなり高くなってきています。精神面・身体面両面で適切な対応ができるよう、これからもスタッフ一同、日々努力していきます。

介護療養病棟だより

認知症療養病棟からソフト食を導入

管理栄養士 池上 知江

これまで、当院での食事形態は「常食」「軟菜食」「キザミ食」「ミキサー食」「ゼリー食」「流動食」の6種類がありました。

ある日、認知症療養病棟の患者さんから「軟菜食の炒め物の肉が硬い。でもキザミ食では何を食べているかわからない。」と意見があり、そこから高齢者の食事について検討を始めました。これまで提供していた軟菜食とキザミ食では、見た目・硬さなどの状態に大きな差があると考え、「見て何の料理かわかる」「舌でつぶせるやわらかさ」「むせにくい形状」を条件としたソフト食を導入することにしました。



(主菜) ミートローフ 左)ソフト食 右)常食



(小鉢) かぶの煮物
左)ソフト食 右)常食

食材はなるべくそのままの形で提供できるようにソフト食に向けた食材を選び、カレイの煮付は蒸してから煮汁あんをかけるなど調理法も工夫しました。また一度ペースト状にしてからゼリー状に固めて、もとの食材の形にしたり、ほぐしたものを寄せることで味・食感がなるべくもとの料理に近づくように試んでいます。

入院されている患者さんにとって食事は楽しみの1つであり、食べることは生きることに繋がります。見た目が良いと食欲がわき、また、嗅覚障害、味覚障害が出てきた患者さんにとって見た目の美味しさは大事になってきます。



現在も試行錯誤の状態ではありますが、嚥下（飲み込み）に優しく、目でも楽しめ、美味しい食事を提供できるよう食事療養部一同頑張っていきたいと思います。

5月の行事食

左)ソフト食 右)常食

- ・メロの煮付・茶碗蒸し・ご飯(お粥)
- ・豆腐とアボカドのサラダ・抹茶のパバロア

病棟のスタッフによると、ソフト食が導入されてから、患者さんの食事の様子に変化が見られるようになりました。お料理の見た目が良く、形がわかるので食事に対する興味がわき、自主的に箸やスプーンを進めるようになりました。また、キザミ食では味わえない、お料理をくずす感覚を楽しまれているようでした。



病棟での食事の風景

病院行事『夏祭り』 患者実行委員会活動紹介



毎年、恒例行事となっている夏祭りで、作業療法の新しい試みとして、夏祭り患者実行委員会を立ち上げました。夏祭りに向けたグループ活動を通して患者さんが主体的に参加すること、協調性を養うこと、達成感を味わうことを目的とし、精神科病棟に入院中の40～60代の男女6名が集まりました。

患者実行委員会では、夏祭り会場である体育館の飾り付けと、ジュースの屋台を担当することになり、夏祭りに向けて装飾品の準備と、屋台で着るためにおそろいのしぼり染めTシャツを手作りしました。



当日、会場は花火の巨大壁画、バルーンアートに加え、個人OTで多くの患者さんが手がけた、折り紙やヨーヨーキルトで作った「あじさい」を飾り、夏らしい雰囲気を作り上げることができました。

ジュースの屋台では、お客さんから「チケットを受け取る→注文を聞く→ジュースを渡す」という接客を行いました。一度に多くの注文がきて戸惑う場面もありましたが、メンバー全員が協力して、最後まで取り組むことができました。また、メンバー全員で手作りしたTシャツは、多くの患者さん・スタッフより大変好評で、みんな嬉しそうに身につけていました。



第23回参議院議員選挙 不在者投票

当院では、選挙の投票日に、病状が思わしくない・単独での外出ができないなどの理由のため、地域の投票所へ行くことができない患者さんに対して、不在者投票施設の指定を受け対応しています。今回の参議院議員選挙では、53名の患者さんに、院内の大会議室において、不在者投票をしていただきました。

病院の理念

慢性期の患者さま一人一人の病状・置かれている状況を個別的に考え人格を尊重し、全職員が職種を超えてチームを組んで一体的に治療目標が達成できるように最良のサービスを提供する。

病院の基本方針

1. 地域への貢献
2. 医療安全・サービスの質の向上
3. 職場の環境づくり
4. 地域連携
5. 経営の健全化

患者さまの権利

患者さまは、人間として尊重され差別されることなく、公平で良質な医療を受ける権利があります。そのため私達は治療を始める際には、診療についての情報をご本人に説明しご理解いただいた上で患者さまのプライバシーを守り、意思を尊重し継続性のある医療を提供します。

〒399-8103

長野県安曇野市三郷小倉6086-2

TEL 0263-76-5500(代) FAX 0263-76-5501

社会医療法人 城西医療財団

ミサトピア小倉病院

精神科療養病棟150床・老人性認知症疾患療養病棟50床

編集後記

院外誌としての「安曇野日和」を発行してから、広報委員の努力により、今回で9号目となり、2周年を迎えることができました。今年の夏は、猛暑にゲリラ豪雨と異常ともいえる気象に驚かされました。それでも、朝晩は、涼しくなり、紅葉の秋が過ぎると、また、寒い冬がやって来ます。暑さ寒さに耐えられるような強い身体になるために、日頃の心掛けが大事だとつくづく思います。

広報委員長 樋口 孝